

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	182人	社会	182人	数学	182人
	理科	181人	英語	181人		

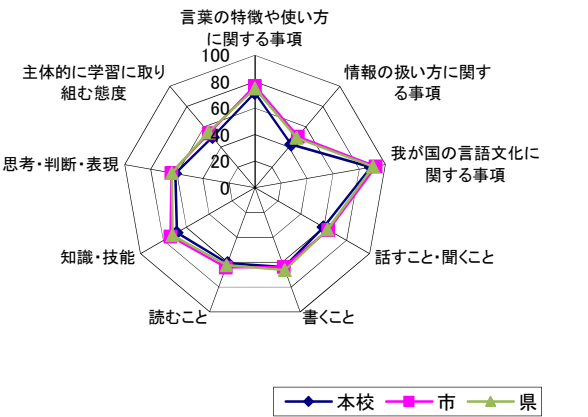
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.6	76.9	74.9
	情報の扱い方にに関する事項	42.6	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	89.0	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	59.7	64.2	63.4
	書くこと	63.9	63.7	66.4
	読むこと	60.8	64.2	62.5
観点	知識・技能	68.2	73.7	71.9
	思考・判断・表現	61.2	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	49.9	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

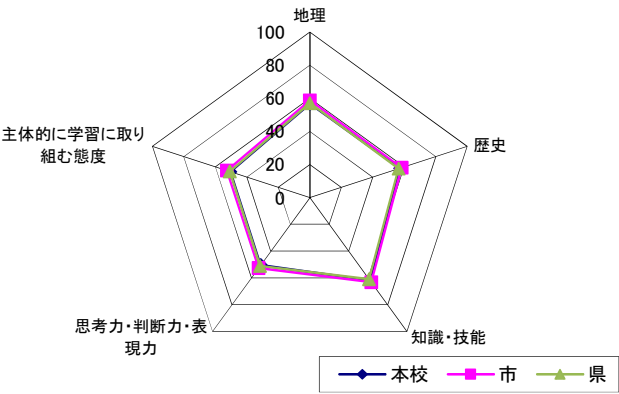
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・答率は市平均より5.3ポイント下回った。県平均も3.3ポイント下回っている。 ○漢字の読みの問題の正答率は比較的高い。 ○故事成語に関する問題では、県平均を2.4ポイント上回っている。 ●漢字の書きの問題や、文法に関する問題の正答率が低い。	・漢字の読み書きは以前からの課題である。新出漢字のみでなく、小学校のころに学習した漢字も復習するなどして知識の定着を図り、漢字の読み書きテストを今後も継続していく。 ・文法の復習を丁寧に行い、文法に関する知識の積み上げを図る。 ・ひらがなを多用する生徒が非常に多いので、日常の中で、漢字を適切に使用するように指導する。
情報の扱い方にに関する事項	・正答率は市平均より7.7ポイント下回った。県平均も6.6ポイント下回っている。 ○情報と情報の関係を理解して内容を解釈する問題は県の正答率を3.0ポイント下回っているものの、差はあまり大きくなく、概ねできていると言える。 ●情報と情報の関係を理解して自分の考えを明確にするために話の構成を考える問題は、正答率が県平均を10.4ポイント下回っており、苦手とする生徒がかなり多いことが分かる。	・情報を整理し、内容を読み取る力を付けるために、生徒が興味関心があるものと結びつけて、普段から他教科と連携して資料を正しく読み取る力を付けていく。 ・内容の把握が理解しやすいよう文字だけでなくイラストや写真などを効果的に活用していく。 ・自分の考えを明確し、相手に伝わりやすいように話の構成を考える練習として、授業の中で意見交換の機会を多く設ける。
我が国の言語文化に関する事項	・正答率は市平均より3.6ポイント下回った。県平均も1.7ポイント下回っている。 ○正答率は市平均・県平均ともに下回っているものの、差はあまり大きくなく、概ね理解できていると言える。	・歴史的仮名遣いへの理解は身に付いているので、それを活用して古文が読めることを実感させ、自信を付けさせて、古典に対する関心・理解を高めることを目指す。
話すこと・聞くこと	・正答率は市平均より4.5ポイント下回った。県平均も3.7ポイント下回っている。 ○話の内容を正確に聞き取る問題の平均正答率は県平均とほぼ同じであり、聞き取りテストを定期的の実施した効果が表れた。 ●聞き取ったことをもとに、発言を結びつけて考えをまとめたり、聞き取ったことをもとに相手にわかりやすいように話の構成を考えたりすることを苦手とする生徒が多く、5.2ポイントから最大で10.4ポイント県平均と差がある。	・今後も継続して聞き取りテストを実施する。 ・他教科と連携して、言語活動を取り入れた授業を継続して実施し、発表や説明の機会を増やす。その際、聞き手に理解してもらう話し方の工夫についても考えさせ、指導していく。
書くこと	正答率は市平均を0.2ポイント上回り、県平均を2.5ポイント下回った。 ○指定された字数・構成で書くことは県平均をわずかに下回るものの、概ねできている。 ●伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書く問題の平均正答率は県平均を4.3ポイント下回り、字数や構成など、他の項目に比べて、県平均との差がやや大きかった。	・今後も継続して授業で短作文を書く活動を取り入れ、書くことに対する苦手意識や抵抗感を減らしていく。 ・適切に自分の意見を表現することを課題とし、小学校とも連携して取り組んできた。引き続き、小中一貫での取組に力を入れていく。
読むこと	・正答率は市平均より3.4ポイント下回った。県平均も1.7ポイント下回っている。 ○文章内容の理解や、表現の効果の理解は県平均を上回っており、理解できている生徒が多い。 ●登場人物の心情の変化を捉える問題の平均正答率は県平均を下回っており、課題が残った。	・授業では発問を工夫して丁寧な読み取りを心がけてきた。今後も、細部の内容理解にとどまることなく、全体を見ながら構成を捉える指導をしていく。また、学んだ構成を使って文章を書く指導をするなどして、書く力の育成にもつなげる。 ・登場人物の心情を表す言葉や情景描写に注目させる機会を増やすなどの指導に力を入れる。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	56.6	58.7	57.0
	歴史	57.3	58.3	56.4
観点	知識・技能	61.9	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	50.5	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	50.4	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

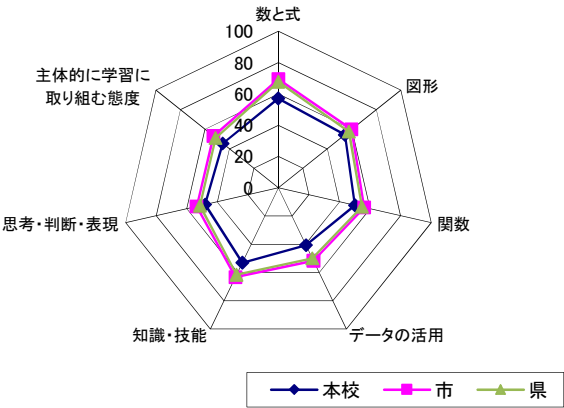
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	・地理は、県の平均を0.4ポイント、市の平均を2.1ポイント下回っている。また、観点別正答率では、3つの観点とも県平均と同等の正答率である。 ○日本の姿、世界各地の人々の生活と環境においては、校内正答率が県正答率を上回り、市の平均と同等の正答率である。 ○「日本の都道府県について理解している。」に関する問いの正答率は、県の平均より8.1ポイント、市の平均より5.8ポイント上回っている。 ○ヨーロッパの農業について資料をもとに考察する問題における正答率は、県の平均を6.4ポイント、市の平均を6.7ポイント上回っている。 ○世界のさまざまな国の特色について問う問題や世界の気候について雨温図をもとに考察する問題、日本の国土と排他的経済水域の面積について資料から考察する問題、乾燥した地域に住む人々の暮らしについて複数の資料をもとに考察する問題における正答率は、県の平均を上回っている。 ●世界の諸地域に関する問題の正答率が、全てにおいて県の正答率、市の正答率を下回っている。 ●アジア州での農業生産について、資料をもとに考察する問題に関しては、県正答率を15.6ポイント、市の平均を11.9ポイントと大きく下回っている。	・今後も授業を通して知識・技能の定着に努め、複数の知識や技能を活用して考えるような問いの設定を工夫していく。 ・ワークシート等で資料問題を多く提示し、思考する場面を多く取り入れた授業構成を工夫する。 ・世界の人の生活の様子や世界の諸地域の学習では、動画や写真資料をふんだんに用いて、イメージをもたせる指導を継続していきたい。 ・ICTを活用して資料の提示の仕方を工夫する。 ・引き続き多くの資料を提示しながら資料活用能力を培い、複数の資料を関連付けて考察する学習活動を取り入れていく。 ・世界の諸地域の生活や産業の特色を考察し、説明させる学習活動を組み入れていきたい。その際、根拠を明確にすることを意識させ、説明する習慣を養っていくようにする。 ・世界の諸地域の産業の特色については、地形や気候、人やものの行き来、資源、貿易等とのかかわりから多面的、多角的に考察させる学習活動を計画的に授業に組み込んでいくことが必要である。 ・世界の諸地域の人々の生活、産業については、日本の自分たちの生活との結びつきを考えさせ、つながりを理解させるよう工夫する。
歴史	・歴史は、県の平均を0.9ポイント上回っているが、市の平均を1.0ポイント下回っている。 ○中世の日本に関する問題の正答率は、県の平均、市の平均ともに上回っている。 ○卑弥呼についてや藤原道長の政治について、室町時代の民衆の生活についての理解を問う問題では、県の平均を5ポイント以上上回り、さらに市の平均も上回っている。 ●縄文時代の人々の暮らしについて問う問題の正答率が県平均を6.3ポイント、市の平均を8.6ポイント下回っている。古墳時代以前に係る事象を問う問題の正答率が低い。	・歴史的事象を人物と関連させたり、時代背景と照らし合わせたりしながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・今後も資料を活用した授業展開を行い、定期テストなどでも資料を用いた問題を多く取り入れていきたい。 ・記述問題をワークシートに多く取り入れ、語句指定への対応などの解き方を指導していきたい。 ・古代の歴史は資料が少なく、興味関心や理解に個人差が大きいため、CG資料などICTを駆使した資料を開発し、提示することで想像力をかき立てられるような工夫をする必要がある。 ・複数の資料から読み取って関連付けて時代を考察する力が望まれる。根拠に基づいて、歴史的事象を肯定させたり、批判させたりして時代を大観する思考を養っていきたい。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.0	69.3	67.7
	図形	54.3	59.8	57.7
	関数	50.1	56.2	54.7
	データの活用	40.6	51.6	49.9
観点	知識・技能	53.1	63.2	61.5
	思考・判断・表現	48.0	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	45.4	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

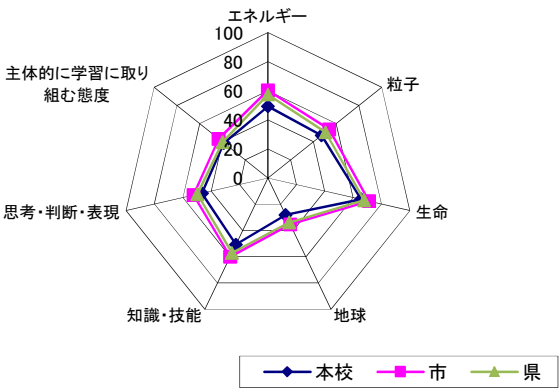
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	- 平均正答率は、市よりも12.3ポイント、県よりも10.7ポイント下回っている。 ○正負の数の四則計算の結果の特徴を的確に捉えることや、負の数の大小関係を問う問題の正答率は、市や県と同程度である。 ●文字式では、数量の関係を不等式に表すことの正答率が低い。 ●1次方程式では、与えられた文章に対して、適切な1元1次方程式を立式する正答率が低い。	- 計算問題は、授業の中だけでなく、家庭でのドリル形式の課題を取り入れて基本の定着を図っていく。 ・正・負の数に関する知識が定着するように丁寧に指導し、計算を繰り返し解くことで正確に速く処理できる力を付けていく。 ・文章問題に慣れさせ、繰り返し同じような問題を解かせることで論理的に考え答えを導き出す力を付けていく。
図形	- 平均正答率は、市よりも5.5ポイント、県よりも3.4ポイント下回っている。 ○平面図形の対称移動、空間図形の体積を求める正答率は、市や県と同程度である。 ●おうぎ形の面積を求めたり、直方体の辺のねじれの位置関係を見つけたりする問題の正答率が低い。	・図形の性質をしっかりと理解させる。 ・空間図形がイメージしやすいように、実際の立体や視聴覚教材等を用いる。 ・おうぎ形の面積の求め方については、繰り返し問題練習を行わせる。
関数	- 平均正答率は、市よりも6.1ポイント、県よりも4.6ポイント下回っている。 ○比例・反比例の関係におけるx、yの値から立式する正答率は、市や県と同程度である。 ●関数についての意味を理解することに課題がある。	・日常生活の中で関数に関連のある題材を用意し、生徒の興味・関心が高まるように努める。 ・関数の意味について、日常の生活との関連を図りながら指導していき、練習問題を繰り返し行っていく。
データの活用	- 平均正答率は、市よりも11ポイント、県よりも9.3ポイント下回っている。 ○階級の度数を求めたり、相対度数を用いたりする理由の正答率は、市や県と同程度である。 ●度数分布表から相対度数を求めたり、累積度数、中央値を求めたりすることに課題がある。	・度数分布表をもとに、相対度数、累積度数、中央値の意味を丁寧に指導する。その上で身近な事例を紹介し、興味・関心を高める。 ・データの処理や度数分布表の作成においては、グループ活動を取り入れ、協力しながら学び合う学習をさせていく。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	49.3	60.3	57.4
	粒子	47.1	53.8	50.7
	生命	65.6	71.2	67.8
	地球	28.0	35.3	33.8
観点	知識・技能	50.6	59.9	57.0
	思考・判断・表現	46.6	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	38.7	43.3	39.8



★指導の工夫と改善

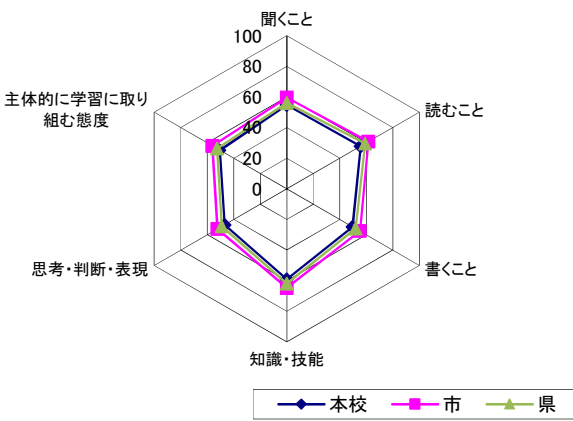
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	- 平均正答率は、県の平均を8.1ポイント下回っている。 ○虹のような現象が、光の屈折が関係する現象であることを考える問題は県の正答率の平均を上回っている。 ●光の性質、力の性質、音の性質について、いずれも理解が不足しており、特に力の性質の、おもりにはたらく重力とバネののびの関係をグラフに表す問題で県の正答率を32.6ポイント下回っている。	力が物体にはたらく内容について、丁寧に矢印を書いて視覚的にわかりやすく理解させるとともに、ワークやAIDリルを活用して復習を行い、理解を深めさせ、より丁寧な問題演習を行うことが必要であると考えられ、基礎的な知識定着を目指す。
粒子	- 平均正答率は、県の平均を3.6ポイント下回っている。 ○質量と体積から、最も密度が大きいものを考える問題は県の正答率の平均を上回っている。 ●水溶液の質量パーセント濃度を求める問題において、問題から式を立てて計算する力が不足している。 ●物質の状態変化に関する問題等についても理解が低い。	- 物質の三態のような、粒子のふるまい等に理解を深めながら、計算などの問題などに丁寧に指導を加えて復習を行う。 - 問題集や教科書の例題、AIDリルを用いて反復練習を行い、基本的な式の立て方などを理解させる。
生命	- 平均正答率は、県の平均を2.2ポイント下回っている。 ○動物を生活環境から分類する問題や、ルーペの使い方に関する問題については県の正答率の平均を上回っている。 ●植物を双子葉類と単子葉類に分類する基準を考える問題について県の正答率の平均を下回っている。	- 植物の分類に代表される、それぞれの植物のつくりやはたらきについての理解を深められるよう、実際の植物の花を利用して図と比較しながら観察させる。 - 動物の分類について、生活環境以外の分類の基準について、進化の過程と歴史背景を絡めながら学習することで基礎的な要素の理解を深める。
地球	- 平均正答率は、県の平均を5.8ポイント下回っている。 ●地球分野は、全体的に県の正答率の平均を下回っている。 ●地震に関する問題では、いずれも本校の平均が県の正答率の平均を下回っている。	- 柱状図の見方や、地震の発生時からの時間と距離の関係を理解する問題などをくり返し解かせることで、基礎的・基本的な理解を促す。 - 問題に取り組む前の予備知識が不足していると考えられるため、身近な標本などを利用して教材を工夫することで関心を高める。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	54.8	59.6	56.1
	読むこと	55.7	61.6	59.1
	書くこと	49.6	55.2	51.9
観点	知識・技能	59.1	64.7	61.9
	思考・判断・表現	47.0	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	50.5	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・正答率は市平均より4.8ポイント、県平均よりも1.3ポイント下回っている。 ○英文を聞き取って適切な絵を選ぶ問題や概要を聞き取る問題の正答率が高い。 ●細かい内容や紛らわしい単語があると内容を把握することが難しい生徒が多い。また、放送される内容は理解できるものの、自分の考えを正確に伝えることは難しい。	・授業を英語で行うことにより、英語を聞く習慣を身に付けていく。また、日本語にはない発音の単語はALTと連携して、音に慣れさせることで、聞こえる音と文字が一致できるように指導していく。 ・教師と生徒、生徒同士がコミュニケーションをとる機会を多く設け、相手の話したことを聞き取るだけでなく、その内容に反応し、やり取りできるよう指導していく。
読むこと	・正答率は市平均より5.9ポイント、県平均より3.4ポイント下回っている。 ○人物に関する内容については、読み取ることができる。また、身近に使われている単語で書かれた文については概要をつかむことができる。 ●文の構成を理解していないため、細かな内容について理解を誤ってしまう生徒が多い。 ●説明文や資料からの読み取りについて苦手意識を持つ生徒が多い。また、正しく資料を読み取れていないため、誤答が多く、更には読もうとしない生徒もいる。	・既習の単語でもなじみのない単語についての定着が薄いため、単語テスト等を実施して単語力をつける。また、教科書を読むときには概要をまずはつかませ、その上で、必要な情報を読み取る習慣をつけさせたい。 ・イラストや写真などを効果的に使い、生徒が興味・関心があるものや身近なものと結びつけて内容が理解できるよう教材を工夫する。 ・普段から他教科と連携して資料を正しく読み取る力をつけていく。
書くこと	・正答率は市平均より5.6ポイント、県平均より2.3ポイント下回っている。 ○自分のことについて書くことに関しては市や県と同等の正答率である。伝えることに関する問題の正答率が低い。 ●質問文を正しく書いたり、三人称単数現在の文についての理解があいまいな生徒が多い。 ●文の構造の理解があいまいな生徒が多い。特に疑問詞を使う疑問文に苦手意識がある。	・自分のことについて書くことはできるようになっているので、今後も普段の授業で自分のことについて表現する機会を多くする。また、発展として、友達のことや身近な人のことも伝えたり紹介したりする機会を設けることで、自分以外の主語の表現をつけさせたい。 ・会話活動では質問をすることが自然にできるようになってきているが、会話活動で使った疑問文を確認する時間を設け、正しい文法で書けるよう指導していく。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習については、「家で、学校の授業の復習をしている」、「家で、自分で考えた勉強をしている」の肯定割合は、県・市の傾向と同等である。「テストで間違えた問題の勉強をしている」の肯定割合は、県・市よりも高い。家庭学習が、復習を中心として定着していると考えられる。

●「勉強していて、不思議だな、なぜだろう、と感じる」や「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定割合が、県・市より下回っている。課題意識をもった学習を身に付けさせれば学習意欲と学力向上につながると考えられる。

○授業では、「授業の中で、目標が示されている」「学習したことをふりかえる活動をよく行なっている」の肯定割合が県・市よりわずかに上回っている。また「先生は学習についてほめてくれる」「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定割合も高い。今後も生徒と教師の良好な関係を維持して、授業に意欲的に取り組む姿勢を継続していく。

○「自分には良いところがある」「人と話すのは楽しい」の肯定割合が高い。自己肯定感が高く、活力ある生活を送っているため、視野を広げ、自他共に認め合える場の設定を今後も継続していく。

○生活面では、「毎日、朝食を食べている」「早寝、早起きを心がけている」の肯定割合が県・市より上回っている。また、「家の人と学校の出来事や将来のことについて話すことがある」の肯定割合が県よりも上回っている。家庭との連携を図るとともに、規則正しい生活習慣の継続を進めていく。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、スマートフォンを使ったゲームをしますか」の質問で、4時間以上の割合が県、市よりも4ポイント上回っている。本校は、携帯電話の所持率も高く、テレビゲームや携帯の使用方法や時間について家庭と連携を図る必要がある。

○教科に関しては7割の生徒が、社会、音楽、美術が好きと答えている。歴史に感心が高く、自由な発想で創造することが得意である。

●数学、理科は苦手意識が強い。数学では、計算は興味をもって行うが、理科、数学においては、思考力・判断力を問われる問題が苦手である。分かる授業を通して意欲の向上と継続した学びの場を設定していく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT機器の利点を生かし、主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。	授業公開ウィークを実施するなど、校内研修の機会を設け、ICT機器を活用した授業を、互いに公開、参観し合うことで、ICT機器の効果的な活用を促進し、職員の授業力向上を図る。	「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合はそれぞれ58%、65.8%で、県や市を下回っている。
学習意欲の向上を図るための教材、教具の工夫改善	ICT機器を積極的に活用し、調べ学習や、学び合いの機会を増やすことで、生徒の学習意欲を高めつつ、基礎基本の定着と記述等に粘り強く取り組む態度を育む。	5教科の授業が「好きですか」に対し社会や英語では肯定割合が、いずれも市や県を上回りほぼ良好だが、「内容がよくわかりますか」の肯定割合は、5教科ともに下回っている。学力向上につながるよう教材、教具を工夫し、分かる授業への改善を図り、授業と家庭学習をつなぐことで、家庭学習の充実による定着を目指す。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家で平日1時間以上、休日2時間以上勉強している割合がそれぞれ54.2%、29.3%であり、市や県と比較すると時間が短い。	学力定着のため、家庭学習の習慣化と質の向上	授業とリンクして、考えさせたり、調べさせたりする活動を取り入れた宿題を積極的に出すことで、家庭学習の成果を実感させ、自主的に取り組もうとする意欲を高める。一人一台端末のAIドリルを活用して、個に応じた課題に取り組ませることで、家庭学習の充実と習慣化を図る。